

地域の社会・自然のなかの 博物館



学校・教員と博物館

佐久間大輔(大阪市立自然史博物館)

前身は靱公園の 自然科学博物館

- 1950年に天王寺の美術館の廊下で展示活動を開始して以来、55年を迎えています
- その後1958年から1974年まで、靱公園の小学校跡で自然科学博物館として活動してきました。



大阪市南部、長居公園に移転 自然史博物館として

- 1974年に自然史博物館として長居植物園とともに開館
- 以来30年にわたって、大阪市民に自然を見つめる楽しさ、自然の大切さを伝えてきています



常設展 自然と人間

・本館

1. 身近な自然
2. 地球と生命の歴史
3. 生命の進化
4. 自然のめぐみ
5. 生き物のくらし

・花と緑と自然の情報センター
大阪の自然誌



第2展示室に追加したプテラドン



本館入館者数:192,424人
(平成20年度170,666人)
(平成19年度204,019人)

特別展

- 2009「ホネホネ探検隊」
- 2009「キノコのひみつ」
- 2010「大恐竜展」
- 2010「淀川大図鑑」
- 2011「大化石展」
- 2012「ハチの世界」
- 2013「大阪湾展」



調査研究事業

- ・学芸員の個別テーマによる調査
- ・市民も含めた共同調査
淀川水系の水質・生物調査(プロジェクトY)など
- ・博物館など他機関との連携による調査
西日本自然史系博物館ネットワークによるGBIF事業など
- ・科研費 基盤研究3件, 若手研究2件 総額676万円
その他の外部資金 5件

プロジェクトY フジツボ班調査

資料収集保管事業

資料数

動物研究室	128,375点
植物研究室	405,975点
昆虫研究室	881,993点
地史研究室	58,013点
第四紀研究室	10,604点
合計	1,484,960点

(H21年度)



特別收藏庫内植物標本棚

普及教育事業 - 1 (野外行事)

- 「やさしい自然かんさつ会」(8回;749人)
- 「テーマ別自然観察会」(14回;502人)
- 「地域自然誌シリーズ」(6回;190人)
- 「街のキノコたんけんたい」(6回;219人)
- 「長居植物園案内」(9回;548人)
- 「長居植物園案内 動物・昆虫編」(11回;380人)
- 「ビオトープの日」(12回;517人)
- 「ジュニア自然史クラブ」(10回;105人)
- その他



普及教育事業 - 2 (室内行事・講演会など)

- 「室内実習」(9回; 203人)
- 「自然史オープンセミナー」(12回; 604人)
- 「標本同定会」(124人)
- 「夏休み自由研究相談会」(25人)
- 「ドキドキ子ども自然史ウォッチング」(2回193人)
- 普及講演会・シンポジウム(10回; 1297人)
- その他



普及教育事業 - 3 (来館者の学習支援)

- ・自然史博物館探検クイズ
60日、24,894人
- ・子どもワークショップ
34日 2,725人
- ・ジオラボ
11回、461人

花と緑と自然の情報センター1階
「学習コーナー」

図書閲覧・情報検索・標本閲覧
・ビデオ閲覧＋学芸員配置

学校教育との連携

- 教員・観察会指導者向け支援プログラム(18回;258名)
- 資料貸し出し(展示解説・標本)
- 団体見学用ワークシート・地図の配布
- Teachers Museum Network(107名)
- 総合学習対応:博物館での授業(18件953名)
- 就業体験(7件;10名)
- 博物館学実習(35名)

T M 通信 2007 No.5
eachers - useum
 2008/3/21
 編集・発行: 大阪市立自然史博物館
 〒546-0034 大阪市東住吉区長慶公園1-23 tel 06-6697-6221 (博物館代表番号)
 http://www.mus-nh.city.osaka.jp/ e-mail: tm@mus-nh.city.osaka.jp



※送付先の変更や、メールアドレスの変更などあれば、ご連絡ください。経費削減のため、なるべく通常の通信はEメールで連絡させていただきたいので、登録時に郵送を希望された方でメールアドレスを取得した場合は上記までご連絡ください。

■特別展「ようこそ恐竜ラボへ！
 ー化石の謎をときあかすー」
 イベント情報■



特別展「ようこそ恐竜ラボへ！」が始まりました。開催は、6月29日(日)まで。学校の春の遠足でやってくるのも楽しいですが、個人で来館される時には、特別展イベントに参加されるのはどうでしょうか。会期中土日を中心に、様々なイベントが開催されます。おすすめの行事を紹介しましょう。

1. 恐竜ラボ・トーク「恐竜研究ってこんなにおもしろい！」 4回(各回ごとに要申し込み)
 毎回変わる講師が、恐竜研究にまつわるお話をします。時間は各回同じ:13時30分~15時
 1回目:3月23日(日)「ゴビ砂漠の魅力」 講師 林原自然科学博物館 石垣忍副館長
 2回目:4月12日(土)「発見が続くアジアの竜脚類」 講師 福井県立恐竜博物館 東 洋一館長
 3回目:5月18日(日)「丹波の恐竜化石発掘最新報告」 講師 兵庫県立人と自然の博物館 三枝春生研究員
 4回目:5月31日(土)「恐竜の生きた姿を復元する」 講師 画家・イラストレーター 小田 隆
2. プレパレーターにぎちゃおう(申し込み不要)
 発掘現場から持ち帰った化石を岩石から取り出したり、レプリカを作ったり、化石を研究できる状態に準備するのが、プレパレーターの仕事。林原自然科学博物館のプレパレーターが会場内に登場し、仕事のようすや道具などを見せてくれます。質問もできます。
 日:3月27日(木)、3月28日(金)、4月19日(土)、4月20日(日)、5月31日(土)、6月1日(日)
 時間:1回目 10時~12時 2回目 13時~14時 3回目 15時~16時

詳しい申し込み方法や参加の仕方は、博物館ホームページ、イベント情報をご覧ください。その他の行事、新たなイベントの最新情報も、ホームページ等で発表します。

<https://www3.mus-nh.city.osaka.jp/scripts/event.exe>

特別展「ようこそ恐竜ラボへ！ー化石の謎をときあかすー」

会期 2008年3月15日(土)~6月29日(日)
 開催時間 午前9時30分~午後5時(入館は30分前まで)
 休館日 月曜日(ただし祝日は開館)、翌日休館)
 会場 大阪市立自然史博物館 花と自然の情報センター2階マイチャーホール
 観覧料 大人1,100円(1,000円) 高大生600円(500円) ※カッパ内は前売料金。
 ※中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方、大阪市内在住の65歳以上の方(要証明書)は無料。
 ※30名以上の団体には団体料金あり。詳しくはお問い合わせください。
 ※チケットは、特別会場、チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド、e+(イープラス)などで発売。

大阪市立 自然史はくぶつかん
 小学生 ワークシート
 ぼくはナウマンゾウ

学校
 なまえ

ぼくはナウマンゾウ

1 入り口には大きなボクの模型があるよ。大むかし、ボクはどこにすんでいたんだと思う？

2 これはホンモノのボクのアゴのほね。そっとさわってみよう。かたい草なんかもすりつぶしてしまう歯がついているんだ。さて、いくつの歯がついているかな？

3 ボクは、よくマンモスとまちがえられてアゴのホネの横に、ボクとマンモスのホネならんで展示してあるよ。下の絵は正面かさて、ボクのホネはどっち？

A() B()

小学生 おまけシート
 ドングリあつめたよ!

どんぐりそうこ

アベマキ ナラガシワ トナリキ

はくぶつかんには、大むかしの土の中からみつかった「どんぐりそうこ」があるよ。むかしの人があつめたどんぐりがいっぱいかくれている。

博物館は展示だけではない ユーザーとして参加できる

- 博物館の周りには1700世帯の友の会コミュニティ、400人のメーリングリストコミュニティ、3000人のTwitterフォロワーなどたくさんコミュニティがある
- サークル、研究グループ、ボランティア、NPO等様々なグループ
- 中学生・高校生グループも。
- 教員サポートグループも。



自然史博物館の活動の新たな方向性

- 資料収集保管
- 調査研究
- 教育・普及
- 展示
- 大阪の「自然の情報拠点」として自然史博物館の機能を発展させていきます。
- 社会教育施設として、人々の知的好奇心を刺激し、見つめる学習の援助を行います。
- 地域との連携を促進してより広範な市民との交流に努めます。

博物館活動の新たな方向性

- 他の機関との連携を進め、ノウハウの交流に努めます。
- わかりやすく効率的な博物館経営をめざします。

様々なステージで教員・学校も
キーポイントに

自然史博物館をもっとも頼りにしている人は誰？

- 学校
- 地域住民（日常の学習施設として）
- 域外の住民（観光・行楽ユース）
- 隣接地域のアマチュア
- 隣接地域の自然関連活動

この先には、それぞれの地域の「学校」や「地域住民」が存在

もっと楽しんでもらえ、もっと使いやすく、
もっとわかりやすくするには？

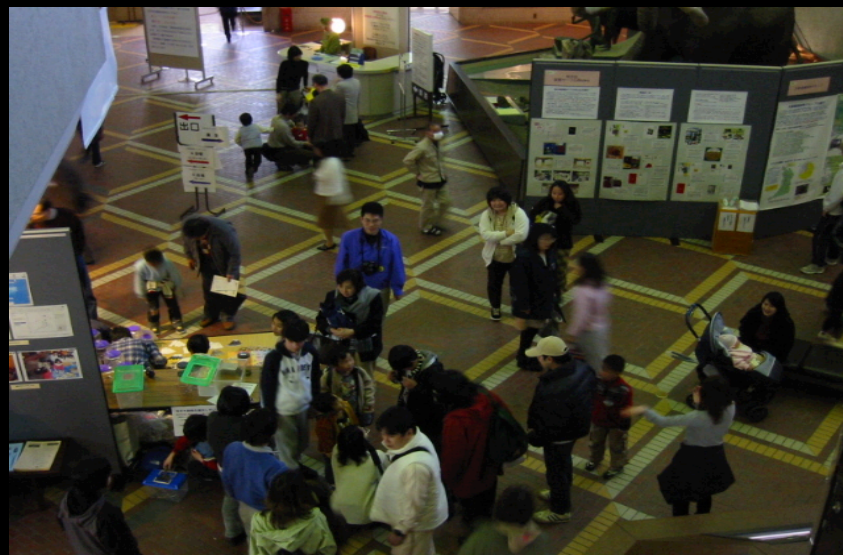
大阪の「自然の情報拠点」として自然史博物館の機能を発展させていきます

- 情報がたまっている場所
 - 情報の発信拠点
 - 情報が集まってくる場所
- ↓
- 情報を持った人が集まる場所



アマチュアの育成・支援

- 地域の自然を最も近くで見つめることのできる人
- 続けるためには交流の輪が必要



現在自然史博物館の周辺で 動いている市民参加の調査

- アサギマダラを調べる会
- うつぼ公園の蝉の抜け殻調べ
- 大和川プロジェクト(Project Y)
- タンポポ調査近畿2005
- 大阪鳥類研究グループ
- 大阪湾海岸生物研究会
- ...And more!

友の会はこれらのプラットフォーム

■社会教育施設として、人々の知的好奇心を刺激し、見つめる学習の援助を行います

■ 学校ユーザー向けに

⇒遠足利用者向けの利用改善

⇒総合学習用の学習支援

■ 地域のアマチュア・自然関連活動むけに

⇒博物館との連携のためのイベント
例えば「大阪自然史フェスティバル」

⇒その楽しさを求心力に地域住民
や域外住民のとりこみ

遠足利用をもう一步すすめる . . .



地域の子どもたちが楽しめる場所として



- 子ども「ワークショップ」
- 探検ワークシート
- ==> 博物館体験を楽しく演出

■地域との連携を促進してより広範な市民との交流に努めます

- 大阪自然史フェスティバル
- 博物館は「地域の自然の情報拠点」でありたい
- そのためにも地域の自然をよく見ている人たちの「集まる場所」でありたい
- さらに博物館での交流が、各地での観察や活動にプラスになれば・・・

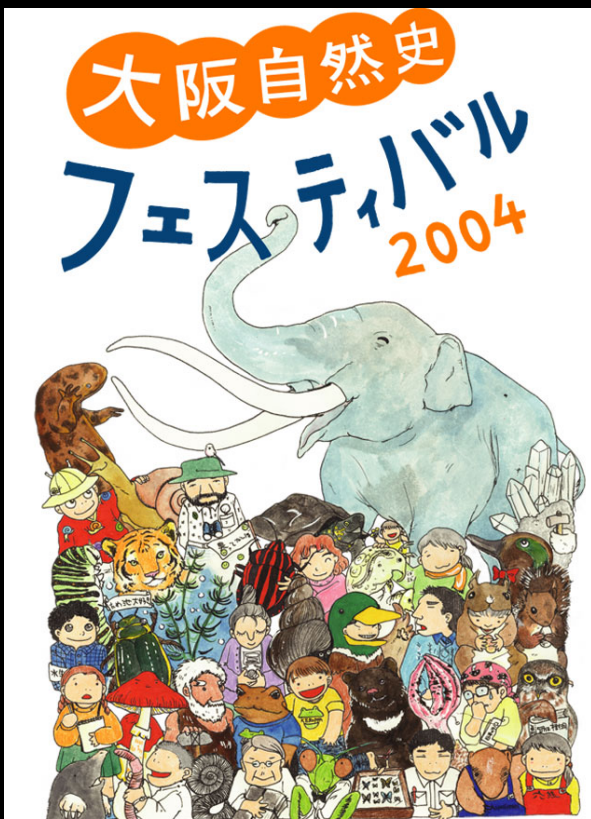
⇒地域に根ざした自然科学の効果的な普及教育の実現

大阪自然史フェスティバル 2003年から実施

- 大阪周辺のアマチュア研究グループ・自然保護団体・博物館・企業など自然関連施設85-100グループが参加
- 友の会会員，周辺住民を中心に毎回のべ約1-2万人が来場



2013年は「野鳥」をテーマに11月16・17日にバードフェスティバルを実施。



自然を見つめる活動の楽しさを伝える

- 博物館の来館者・市民に自然をめぐる活動の楽しさを伝える
- 友の会で学ぶ市民に受け手だけでなく、知識を求め交流する喜び、それを表現する喜びを伝える



ジュニアからシニアまで

- それぞれのブースが一個の小さな博物館
- それぞれの個性と想いがあふれた空間が展開
- ⇒ 普段の活動の充実がキーポイント
- 例えばSSHの取り組みを発表、学校ビオトープの取り組みを発表も。



グループ間の交流・博物館との交流



- さまざまな取り組みの発表の場としてノウハウ(・悩み)の共有
- 様々な「専門家」と知り合いになれる
- 博物館が地域の自然を語るためのプラットフォームになる

コミュニティが仲立ちする 博物館と市民の交流

- 博物館と市民をつなぐ受け皿には、人のつながりが重要。
- 学校・教員の皆さんも博物館のメッセージを広げてもらう大切なキーファクター
- どのような連携を気づけるか

